

- 1.患者の安全・安楽を考慮して基本的看護ケアが自立して提供できる
- 2.看護チームメンバーの役割を理解し行動できる

	4月	5月	6月	7月	8月
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人としての接遇を身につけることができる 2. 看護部の理念、基本方針を理解できる 3. 年間目標を立てることができる 4. 感染対策について理解する 5. 医療安全対策について理解する 6. 部署の構造を知る 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日勤業務の流れが分かる 2. 基本的な疾患について自己学習できる 3. 褥瘡対策について理解する 4. 感染対策を念頭におき業務を行える 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者の優先順位を考えて、1日の業務を組み立てることができる <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーシップを理解する ・受け持ち看護師としての役割を理解する ・タイムスケジュールに沿った仕事を指導者と共に行える 2. 医療安全を意識し安全に仕事を行える 3. 麻薬の基礎知識を理解する 4. 麻薬使用中の患者の観察・評価ができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者の優先順位を考えて1日の業務を組み立てる事ができる 2. 経験を重ね技術習得を目指すことができる(看護技術チェックリスト:50%を目指す) 3. 受け持ち看護師として指示の下、入院から退院までの一連の流れを理解する 4. メンバーとして行動がとれる 5. 急変時の看護について理解し、災害対策について知る 6. 3ヶ月の振り返りができる 7. KYTに取り組むことができる 	
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1-①患者・家族、スタッフに笑顔で挨拶ができる ②マナーブックに沿った身だしなみができる ③笑顔で親切な対応ができる ④5分前行動ができる ⑤他者に不快を与えない言葉使いができる ⑥体調管理ができ毎日出勤できる 2-①職場の規律を理解し、守ることができる ②守秘義務のルールがわかる ③病院の職員として自覚が持てる ④他者との良好なコミュニケーションをとることができる ⑤病棟内の体制や患者について理解できる ⑥病棟の雰囲気慣れることができる 3-①看護部個別目標管理表の記入ができる ②ポートフォリオの記載ができる ③分からないことは積極的に聞くことができる ④勉強会に参加できる 4、5-①集合研修に参加できる 6-①部署の構造、担送・護送の区別がわかる ②消火器・排煙設備の場所がわかる ③避難経路がわかる (評価者:1-6 教育主任) 	<ol style="list-style-type: none"> 1-①病棟のスケジュールが分かる ②指導を受けながら日勤業務が実施できる (一つ一つの行為に根拠を持って実施できる) ③指導を受けながら受け持ち患者を持つことができる ④指導を受けながら、報告・連絡・相談ができる ⑤指導を受けながら、看護記録が正確に入力できる ⑥処置、検査の必要性和手順、注意事項がわかる ⑦タイムスケジュールに沿った仕事を指導者と共に行える 2-①担当の科の疾患について学習することができる ②受け持ち患者の疾患について理解できる ③勉強会に参加できる ④分からないことは積極的に聞くことができる 3-①褥瘡対策について知ることができる ②褥瘡予防の援助ができる (体位交換、クッション等の使い方) ③体圧分散寝具を選択し、使用できる ④DESIGN-Rの評価がわかる 4-①スタンダードプリコーションを理解し、実践できる ②感染管理ベストプラクティスを理解し、実践できる ③手指衛生が確実にできる ④環境整備ができる (評価者:1-2 教育主任、3 褥瘡委員、4 感染リンクナース) 	<ol style="list-style-type: none"> 1-①基本的な療養上の生活援助が一人で出来る ②受け持ち看護師の役割が理解できる ③優先順位を考えてタイムスケジュールに沿った仕事ができる ④複数人数の患者を受け持ち、看護業務が行える ⑤チーム間の応援体制が分かる 2-①ヒヤリハット、医療事故報告の方法が分かる ②医療安全対策マニュアルを知っている ③医療安全情報、医療事故検討資料を見て自己にて振り返ることができる ④6Rに基づいて安全に与薬が行える ⑤6Rに基づいて安全に注射が行える ⑥基本的な手順を理解でき、安全に実施できる 3-①集合研修に参加し、麻薬の種類を知る ②麻薬の取り扱い時の注意事項を知る 4-①集合研修に参加し、麻薬使用中の患者の観察ができる ②疼痛スケールを用いて評価方法を知る ③疼痛スケールを用いて評価ができる ④麻薬の副作用を知る (評価者:1、3 実地指導者、2 リスクマネージャー、4 教育主任) 	<ol style="list-style-type: none"> 1-①複数の受け持ち患者の優先順位をつけ考えて行動ができる、時間管理ができる ②複数の受け持ち患者で多重課題を体験し、指導者に報告・連絡・相談ができる 2-①看護技術チェックリストに基づき技術の習得ができる ②看護技術チェックリストの習得されていない項目を、習得できるように自ら声かけし、機会を作ることができる ③看護技術チェックリストの習得されていない項目を習得できるように振り返りができる ④自信がない看護技術や経験回数の少ない未習得の看護技術について、積極的に声をかけ実施する事ができる 3-①入院患者を担当し、病棟の案内ができる ②入院チェックリストに沿って入力、書類の準備、作成ができる ③退院が決定後、退院のチェックリストに沿って準備ができる 4-①業務の中で分からない事や迷った場合、リーダーや他メンバーへ報告・連絡・相談ができる 5-①急変時の対応の流れを理解する ②急変発見時のスタッフコールの使用法やスタッフへの声掛けができる ③救急カートの薬品について調べることができる ④救急対応時、必要物品を指示の下準備する事ができる ⑤指導の下、指示を受けて行動する事ができる ⑥防災訓練に参加し、災害時や緊急時の自己の役割について理解できる ⑦コードレッド・コードブルーの意味を理解する 6-①実地指導者と共に3ヶ月の振り返りができ、毎月の自己目標を立案することが出来る(7月) ②ポートフォリオの記入ができています 7-①KYT研修終了後にリスクマネージャーと共にKYTに取り組むことができる (評価者:1-4、6 実地指導者、5 教育主任、7 リスクマネージャー) 	
勤務形態(目安)	<p>日勤のみ 研修後は日々指導者ととも患者を受け持つ</p>	<p>日勤のみ 日々指導者ととも患者を受け持つ</p>	<p>日勤のみ、受け持ち患者2名→3名→4名とステップアップし、日勤独り立ちを目指す</p>	<p>日・祝日の日勤開始</p>	<p>遅番・遅日勤見習い、開始</p>
集合教育Off-JT	<p>病院入職時研修 ・病院オリエンテーション(病院構造・情報管理、コスト管理、薬剤管理) ・接遇、コミュニケーション研修</p> <p>看護部入職時研修 看護倫理・医療倫理、医療安全、感染対策、電子カルテ、看護過程、SOAP記録、看護基礎技術(静脈血採血と検体の取扱い、与薬の技術、胃管、吸引、膀胱留置カテーテル・導尿、おむつ交換、口腔ケア・水飲みテスト、起き上がり・移乗、ポジショニング)</p>	<p>・褥瘡について(予防含む) ・看護過程研修開始</p>	<p>・麻薬の基礎知識・ハイリスク薬・インスリン 他部署見学(薬局) ・必要度研修 ・ポートフォリオ集会・フォローアップ研修 「今の思いを伝えよう ～嬉しかったこと・悩み・不安～」 ・6月～7月中に夜勤研修「患者の夜間の状態を知る」</p>	<p>・輸液ポンプ・シリンジポンプ・低圧持続吸引器 ・ポートフォリオ集会 ・母校訪問 7月～8月(うち1日)</p>	<p>・ポートフォリオ集会(看護過程研修関連図作成の説明) ・KYT研修</p>
現場教育O-JT	<p>・自部署オリエンテーション ・病棟目標、小集団活動、委員会や係について ・勉強会、自己学習 ・ポートフォリオ記載時間を時間内に設ける(4月～6月の出勤日)</p>	<p>・看護技術チェックリストに沿った技術修得 ・日常生活援助(食事・排泄・清潔・移動時の援助など) ・褥瘡 ナースングスキルにて事後課題の実施と確認。口頭試問 ・実地または日々指導者 「1日の計画立案」「翌日の計画立案」 ・感染予防技術(スタンダードプリコーション) ・感染リンクナース 「手指衛生について実技・口頭試問にて評価」 ・夜勤見学研修のオリエンテーション ・看護過程研修開始(5月初旬～病態生理と看護)</p>	<p>・診療の介助(採血、点滴確保・回診など) ・輸液ポンプ・シリンジポンプの使用 ⇒使用前に指導者が口頭試問と実技の確認 ・師長と面談</p> <p>・看護過程研修(アセスメントシート1-6情報記入)</p>	<p>・処置の多い患者を受け持ち優先順位を確認しながらの業務 ・入院、転入、転棟患者の準備と実施 ⇒初回は見学 2回目は指導者と一緒に(自分が主となる) 3回目以降は合格がもらえたら一人で実施 ※合格の基準はチェックリストに沿って正確に行えたとする ・防災訓練参加(部署内) ・3か月の評価 ・看護過程研修(アセスメントシート1-6解釈分析、仮診断)</p>	<p>・師長または教育主任 「遅番・遅日勤オリエンテーション」 ・実地指導者、教育主任 「チェックリスト・ナースングスキルにて技術習得の確認・評価」</p> <p>・看護過程研修(アセスメント用紙7、問題リスト)</p>

新人看護師年間教育計画

- 1.患者の安全・安楽を考慮して基本的看護ケアが自立して提供できる
- 2.看護チームメンバーの役割を理解し行動できる

	9月	10月	11月	12月	1・2月	3月
到達目標	1. 緊急時・急変時の指示を受けて行動できる 災害対策について理解する 2. 夜勤業務の流れがわかる 3. 紙上事例患者での看護展開が指導の下できる 4. 6か月の振り返りができる		1. 患者カンファレンスで受け持ち患者の看護問題を提議できる 2. 他部署体験で各部署の看護を理解することができる 3. 受け持ち看護師として患者の看護展開が指導の下できる		1. 受け持ち患者の看護を振り返り、看護要約の記入ができる	1. 1年の振り返りができる 2. 1年目に立てた自己目標が達成できる 3. 2年目の自己目標を立てることができる
行動目標	1-①緊急時、指導の下報告・連絡・相談、処置の実施、記録が行える ②緊急時や患者の状態が急激に変化した場合、速やかにスタッフコールを押し応援要請ができる ③救急カート内の点検ができる ④救急カート内の物品をどのような時に使用するのか、使用方法を述べる ⑤コードレット・コードブルーの意味が述べられる・手順を知る ⑥避難経路、避難場所、避難時の持ち物の設置場所と内容について述べる ⑦消火器、排煙設備の場所が分かり、使用方法が述べられる ⑧担送、護送の区別が分かり、避難方法が述べられる 2-①夜間勤務を体験し業務内容が理解できる ②指導の下夜勤を実施できる ③受け持ち患者の申し送りを受け、申し送りができる 3-①期日までに指導者に提出できる 4-①6か月の振り返りを、振り返りシートにまとめることができる ②今後の課題を明確にすることができる ③看護観を伝えることができる (評価者: 1-2 教育主任、3-4 実地指導者)		1-①受け持ち患者の全体像を把握し、アセスメントすることができる ②受け持ち患者の問題を抽出し、問題の優先順位をたてる ③個別性のある看護計画を立案、評価、修正が自己にてできる ④受け持ち患者の情報を他メンバーに報告・連絡・相談ができる ⑤患者カンファレンスに参加し、受け持ち患者の問題提議ができる 2-①集合研修にて他部署体験し、各々の看護を理解する 3-①個別性のある看護計画を立案し、看護計画に沿って看護する事ができる ②カンファレンスの参加、計画を修正し看護過程の展開ができる (評価者: 1-3 実地指導者)		1-①看護要約に必要な情報を明確にし、記入する事ができる ②残された看護問題を提示し、継続看護へと繋げることができる (評価者: 実地指導者)	1-①指導者とともに看護技術チェックリストの習得状況を確認できる ②1年の振り返りレポートをまとめ、指導者に提出できる 2-①自己目標の達成状況を評価することができる ②自己目標が達成できない所を振り返ることができる 3-①2年目に向け、新たな目標を考えることができる ②自分の強み、弱みがわかる (評価者: 1-3 実地指導者)
勤務形態 (目安)	夜勤研修、見習い開始	夜勤導入				
集合教育 Off-JT	・夜勤研修(9月～11月中に) ・BLS研修 ・多重課題 ・ポートフォリオ集会	・他部署研修(地域連携室) ・ポートフォリオ集会	・手術室患者体験 ・防災訓練に参加 ・ポートフォリオ集会	・ポートフォリオ集会	・ポートフォリオ集会	・フォローアップ研修 「1年の振り返りと次年度の課題について」
現場教育 O-JT	・師長と面談 「夜勤導入時の心構えについて」 ・看護過程研修(関連図作成) 技術修得状況の確認	・指導を受けながら受け持ち患者の看護過程の展開を行う ・6か月の評価 「振り返りと今後の課題の提示」 ・師長と面談 「自分の看護観について」 ・看護過程研修(看護計画立案)				・1年の評価